「間接ほめ大作戦」

○ 事例検討会で決定した取組の内容

間接ほめ大作戦

- ① 本学級にかかわる教科担当者を4人選び、順番を決める。
- ② 教科担当者に、学級生活満足群にいない生徒を知らせ、その生徒の「よいところ」や「頑張っているところ」など、担任が知らない面を出してもらう。
- ③ 1週間後、学級担任が教科担当者より、その生徒に関する「よいところ」や「頑張っているところ」の情報をもらう。
- ④ 廊下ですれ違った時や掃除時間など、学級担任がその生徒と1対1になるような場面において、「〇〇先生が～のことで、あなたのことを『頑張っているなあ』とほめていたよ」とさりげなく伝えるようにする。
- ⑤ 同様に、残り3人の教科担当者にも順に1週間ずつ観察してもらう。
(4人の教科担当で1か月の取組)

○ 実践を振り返って

【個人について】

- ・部活動での活躍を顧問がほめていたとAに伝えると、Aは嬉しそうな表情を浮かべた。
- ・喧嘩を止めた生徒に対し、生徒指導主事がほめていたことを伝えた。生徒指導主事にほめられたことをきっかけに、受け答えにも素直さが感じられるようになった。

【気付き】

- ・学級生活満足群にいない生徒が10名以上いたので、教科担当者の負担が大きかったようだ。対象の生徒を数名に絞った方がよい。
- ・教科担当者から得た情報で、学級担任が間接的に生徒をほめるという取組自体は、意義があったのではないかと思われる。この取組の意義としては、次の5点が挙げられる。
  - *学級担任が気になっている生徒を、教科担当者が知る機会になる。
  - *みんなの前でほめられることが苦手な生徒も、1対1でほめられると抵抗なく受け入れられる。
  - *直接ほめられるよりも、心地いいと感じる生徒が多い。
  - *教科担当者から肯定的な情報を得ることで、学級担任が生徒を多面的に捉えることができる。
  - *学級担任と生徒の信頼関係を築くきっかけとしても有効である。